

平成25年度 事業計画について

平成24年度は、総帆展帆300回記念式典の開催を含め、学校営業の強化、シーカヤック事業の拡大、企画展による新たなファンの獲得等で、ほぼ目標（17万人）に近い入場者を見込んでおります。また、日本丸メモリアルパークの入場者につきましては、既に100万人を数え、目標（97万人）を大幅に突破する見込みです。

平成25年度は、いよいよ帆船日本丸の大規模改修に向けての調査・検討を開始いたします。併せて、既存各事業についても見直し、海と港と船に関する楽しみと憩いを柱とし、更なるお客様満足度の向上と、みなとみらい地区の賑わい創出に向け、参加型事業の積極的な展開とそれに伴う施設の適切な整備に努め、横浜市との協約目標である来場者18万人の達成を目指していきます。

I 帆船日本丸事業

帆船日本丸は船齢83歳となり、船体強度部材である外板、フレームに加え、帆走艀装、木甲板など各所に老朽化が見受けられます。平成24年度は、日本丸の検査整備期間中にマスト、ヤード及びリギン類の総塗装と水線上の外板補修を行いました。また、25年度は船体整備の専門性を高めるため、年次検査整備業務を追加し、定期検査整備に備えます。また、海事思想の普及活動の一環として、日本丸を活用した市民参加型の事業展開をして、市民の皆様に日本丸の事業活動をより理解していただけるよう努めます。

1 保存事業

帆船日本丸を良好な状態で保存するために次の整備を行います。

(1) 日常保守点検

- ① 観覧者通路・公開区域の安全点検整備
- ② 船内及び甲板清掃、船内真鍮磨き
- ③ マスト、ヤードその他帆装艀装の点検整備
- ④ 船体外板清掃
- ⑤ 木甲板補修
- ⑥ その他

(2) 年次船体整備

「船舶安全法」に基づく検査にあわせて次の工事を実施します。

- ① 定期検査受検工事
- ② 喫水線下の水中検査、板厚計測

- ③ 清水タンク開放点検整備
- ④ 帆走艤装の整備
- ⑤ ポンプ類開放整備
- ⑥ 汚水処理装置開放整備
- ⑦ その他

(3) 災害防止

- ① 観覧者、総帆展帆協力者及び甲板整備協力者の安全の確保
- ② 船内防災センターにおいて火災、浸水及び不法侵入者等に備えて24時間体制で集中監視を実施

2 公開事業

船内を年間290日程度一般公開しています。日本丸乗船経験のあるガイドボランティアによる船内ガイドを毎日実施し、お客様に大変ご好評頂いております。お客様のご意見を反映させることにより、サービスの向上に努めていきます。また、総帆展帆や満船飾を行うことで賑わいを創出していきます。

年間を通して広報活動に取り組み、帆船日本丸の魅力を多くの皆様にお伝えし、観覧者の誘致に努めます。

(1) 公開日等

公開日	次の日を除く毎日 ・月曜日 (祝日にあたる時は公開、翌日が休館日) ・年末 12月29日から12月31日まで ・1月末から2月下旬まで船体整備のため休館の予定
公開時間	午前10時～午後5時
観覧料	帆船日本丸・横浜みなと博物館共通 おとな(高校生以上) 600円(500円) こども(小・中学生) 300円(200円) * () 内は20人以上の団体料金

(2) 総帆展帆

総帆展帆協力者の協力を得て、帆を展げた美しい日本丸をより多くの市民に見ていただくとともに、市民参加型の小規模な展帆(親子展帆)を年7回程度実施して日本丸メモリアルパーク内の賑わいを創出していきます。

総帆展帆実施予定日

4月14日(日)	4月29日(月)	5月26日(日)
6月2日(日)	6月30日(日)	7月15日(月)
8月4日(日)	9月8日(日)	9月29日(日)
10月14日(月)	10月27日(日)	11月10日(日)

計12回予定

(3) 満船飾

祝日及び開港記念日には満船飾を実施し、華やかさをより演出します。

満船飾実施予定日

4月29日(月)	5月3日(金)	5月4日(土)
5月5日(日)	6月2日(日)	7月15日(月)
9月16日(月)	9月23日(月)	10月14日(月)
11月3日(日)	11月23日(土)	12月23日(月)
1月13日(月)	3月21日(金)	

計14回予定

(4) 総帆展帆協力者の養成

平成25年3月現在、総帆展帆協力者として登録されている市民ボランティアは2,273名にのぼります。毎回の総帆展帆に約100名の参加がありますが、今後も継続して事業を実施していくために、一般市民から協力者を募集し、養成します。

(5) 帆船日本丸船内ガイド

一般社団法人海洋会横浜支部及び一般社団法人全日本船舶職員協会横浜支部の協力を得て、帆船日本丸に乗船経験のある元船長・機関長を中心としたガイドボランティアによる船内ガイドを実施しています。

平成25年3月現在、ガイドボランティアとして協力いただいている方は44名で、平日は2名、土日祝日は3名体制で、船内をお客様に案内し、公開事業のサービスの向上に努めます。

3 青少年錬成事業

帆船日本丸は、青少年が船上訓練などを行うことにより海・船・港に関する知識を学ぶ教育施設です。また、団体生活を行うことにより強い心と体を培う施設でもあります。

帆船日本丸及び訓練センターを活用して、青少年錬成のための海洋教室を開催し、海事思想の普及を図ります。

(1) 海洋教室の概要

① 目的

帆船日本丸での規則正しい団体生活を通じて青少年にたくましい

体力と精神力そして協調性・友愛・責任感・注意力等を培い、海、船、港に関する理解と知識の増進を図ります。

② 対 象

小学生以上（1日コース及び宿泊コースは4年生以上）

③ 内容等

種 類	内 容	募集予定数
半日・1日 コース	概要説明、船内見学、甲板清掃、操帆訓練、登檣訓練、結索訓練	600人
宿泊コース	概要説明、船内見学、甲板清掃、操帆訓練、登檣訓練、手旗訓練、避難訓練、船長講話、結索訓練、カッター訓練	800人

(2) 海洋教室の実施計画

平成25年度は、市内小学校の宿泊コースを積極的に受け入れるとともに、29年目を迎える「よこはまこどもマリンスクール」や26回目となる「横浜市工業会連合会新入社員合同研修会」など、継続して利用いただいている団体を引き続き受け入れます。7月に横浜市小学校教育研究会行事部の教員約50名に対し、海洋教室の説明や日本丸の施設案内及び希望者については登しょう訓練の一部を体験していただきます。

4 教育普及事業

帆船日本丸を活用して、その魅力と帆船の文化を知ってもらうため次の事業を行います。

(1) 総合学習の受入

総合学習の一環として体験学習や課外活動を積極的に受け入れます。

5 その他

社団法人横浜港振興協会主催の横浜港カッターレースに協力し、カッターの貸し出し等設備の提供のほか、参加者の安全確保や競技の進行を補助する目的で職員を派遣します。

II 横浜みなと博物館事業

市民ボランティアとともに、展示や教育普及、アウトリーチ活動を通して、多くの人に船や港、海に親しみ、関心を深めることができるように、こどもから大人、ファミリーまでが興味をもって楽しんでいただける体験的なプログラムを用意します。何度でも来ていただける博物館づくりに努め、リピーターと新しい入館者の増加を図ります。

1 常設展示事業

常設展示をよりよく知り、楽しんでいただくために市民の展示案内ボランティアによる展示の案内、説明を毎日実施します。

土・日には、折り紙教室やクイズラリー、ペーパークラフト教室を行い、入館者の拡大とリピーターの確保に努めます。

小学校の団体見学向けには、見学の手引きとなり学習にも役立つワークシートの拡充と活用を図り、学校の社会科見学における展示の利用を促進します。

また、展示を良好な状態に保ち、常に魅力あるものにしておくため、メンテナンスや展示内容と情報の更新を行います。

総合案内所では、当施設と事業の案内及び誘導に加え、周辺観光施設の紹介などのサービスの充実を図ります。

(1) 公開日等

公開日	次の日を除く毎日 毎週 月曜日（祝日にあたる時は公開し、翌日が休館日） 年 末 12月29日～12月31日 燻蒸期間 1月28日～ 2月2日
公開時間	帆船日本丸に同じ
観覧料	帆船日本丸と共通券 帆船日本丸が船体整備中は横浜みなと博物館単独券を発行 企画展等展覧会の期間中は展覧会単独券を発行

(2) 展示案内

- ①展示案内ボランティアによる常設展示の説明は、入館者から喜ばれています。現在29名に協力していただき、毎日複数名の体制で、入館者へのフレンドリーな案内を行います。
- ②小学校の団体見学に対するサポートとして、見学及び学習の手引きとなる学年別ワークシートの改良と活用を行っていきます。

(3) 保守

常設展示にはコンピューターと画像などを複合的に組合せた映像展示や体験型展示、大型実物資料などがあるため、職員による日常的な保守および軽微な復旧作業のほか、専門業者による保守点検、清掃を実施します。このほか、故障した展示物の修理、補修を行い、展示品の良好な維持管理を図ります。

また、展示情報の更新を適宜行い、生き生きとした展示を目指します。

2 特別展示事業

横浜港及び海、港、船をテーマにした企画等の展覧会を開催します。

企画展は、9月に横浜港の関東大震災からの復興を紹介するもの、2月に横浜港にゆかりの船を紹介する展覧会を開催します。会期中には講演会や学芸員による展示解説を実施します。また、6月には三陸河北新報社の協力を得て東日本大震災の復興写真展、夏休みに独立行政法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)の協力を得て海洋をテーマとする展覧会、12月には恒例となった市民からの写真募集による帆船日本丸の写真展を予定しています。

展覧会名	会期
東日本大震災 石巻かほく復興写真展	6月1日～16日
ヨーロッパと日本の乾dock展(仮称)	6月22日～7月7日
のぞいてみよう深海の不思議展3(仮称)	7月中旬～8月中旬
企画展 震災からの復興－関東大震災と横浜港－ (仮称)	9月28日～11月17日
帆船日本丸 第5回 公募写真展	12月14日～1月27日
横浜港ゆかりの船物語展(仮称)	2月15日～4月13日

3 教育普及事業

船や港、海に親しみ、関心を深めるため、こどもから大人、ファミリーで楽しめる体験型プログラムを用意します。春はペーパークラフト教室、夏は小学生向けの船の工作教室、秋は大人向けの海図教室などを行います。週末土日の入館者向けにはリピーター増加のための事業を行います。高校生以下入館、無料の土曜日にはこども向けクイズラリーと船の折り紙教室を、日曜日にはファミリー向け事業として好評なサンデー・ペーパークラフト教室を行います。折り紙教室とペーパークラフト教室等は17名の教育活動ボランティアが指導、運営にあたっています。

また、1年間連続して活動する小学生向け体験型事業である「みなとキッズクラブ」を引き続き実施します。

(1) 横浜みなとキッズクラブ（小学生高学年向け／年間）

みなと博物館や日本丸、内水域、横浜港をフィールドにした体験型活動を同じメンバーで1年を通して行い、身近なところから海と船と港、くらしと環境などに親しみと関心を深める小学生（高学年）向け事業です。ワークシートを使った博物館・日本丸探検や横浜港観察会、コンテナふ頭見学、シーカヤックなどを、7回ほど実施し、活動結果を館内に展示します。

(2) キッズのためのクイズラリー（小・中学生向け／年間）

高校生以下入館無料の土曜日の小・中学生向け事業。展示をよく見て答えるクイズラリーを実施します。

(3) 楽しい船の折り紙教室（こども向け／年間）

高校生以下入館無料の土曜日の事業。常設展示室で教育活動ボランティアの指導による船の折り紙の教室を実施します。

(4) サンデー・ペーパークラフト教室（ファミリー向け／年間）

日曜日の来館者の半数を占めるファミリー層を対象にした事業。教育活動ボランティアの指導で、短時間でできる帆船日本丸と黒船ポーハタンのペーパークラフトのワークショップを常設展示室で実施します。

(5) 大人のためのペーパークラフト教室（大人向け／5月）

大人向けの帆船日本丸のペーパークラフトをつくる教室。1日かけて精巧なペーパークラフトを完成させます。

(6) ミナト散歩（大人向け／6月・10月）

学芸員の案内で、春は横浜港の近代遺産や史跡、秋は横浜港周辺の映画のロケ地を散策します。

(7) 海図教室（ファミリー向け／7月、大人向け／11月）

ワークショップを通じて海図について知り、親しみます。夏休みには親子向け、秋には大人向けに開催します。

(8) 船の工作教室（ファミリー向け／5月、小学生向け／8月）

船に親しむ事業として、ゴールデンウィークにはファミリー、夏休み小学生を対象に、牛乳パックやソーラーパネルなどで実際に動く船の模型を作ります。

(9) のぞいてみよう深海の不思議展3(仮称)ワークショップ(ファミリー向け/7~8月)

毎年好評のワークショップを海洋研究開発機構の皆さんとともに夏休み中に開催します。

(10) 親子でピンホール写真体験教室 (ファミリー向け/7、8月)

「横浜の帆船日本丸」募集写真展関連事業としてピンホール写真体験教室を夏に開催します。

(11) 親子の船の見学会 (ファミリー向け/3月)

横浜港内に入港する航海訓練所の練習船や海上保安庁の巡視船、クルーズ客船などを見学し、その役割や働く人について学びます。春休みに実施します。

4 調査・研究・収集・出版活動事業

(1) 資料調査・研究等事業

横浜港を中心とした資料の調査、研究、収集、整理、保存を行い、その成果を公開するとともに、展示や教育活動に反映させます。また、資料整理のデータベース化を進めます。

(2) 出版活動

博物館ニュースや企画展に合わせた図録等を出版します。

(3) 資料貸出・レファレンス

資料の貸出や閲覧、写真撮影のほか、レファレンスサービスを行います。

5 ライブラリー事業

横浜港や船、海に関する図書・逐次刊行物等を収集・整理、公開し、小学生から専門家に学習、研究の場を提供します。データベース化した約2万3千冊の蔵書情報はライブラリー、ホームページで公開します。

(1) 公開日・公開時間

博物館の公開時間と同じ。

(2) 利用方法

博物館の入館者の利用は無料。ライブラリーのための利用は1人100円。コピーサービス(有料)のほか、レファレンスサービスを行います。

(3) 収集・整理

横浜港、港運、海運、船舶、航海等に関する図書、逐次刊行物等を収集、整理して配架します。また図書のデータベース化を進めるとともに、保守点検を行い、良好な状態を維持します。

6 その他

小中学生の体験学習の受け入れのほか、アウトリーチ活動として、周辺区の教育事業や団体や企業の研修への出張講義など館外での活動を行います。

III 緑地及び研修施設事業等

港湾緑地である日本丸メモリアルパーク内を公共施設としてふさわしい安全性を確保し、環境に配慮した維持管理を行うとともに、有効活用を図るため、次の事業を行います。

1 緑地の維持管理・活用

(1) 安全管理・美化

劣化・老朽化している箇所を速やかに補修改善し、緑地等での安全管理、景観・保全、美化清掃を実施して、施設の環境の維持保全を図り、来園者が安全快適に過ごせる空間を提供します。

(2) 撮影

休館日にもメモリアルパーク内緑地での撮影を可能とし、過去の撮影実績と傾向を踏まえルールに則った利用促進を図ります。

(3) 催事

市民交流の場、リサイクル活動の場として、リサイクル運動市民の会と共催で年間15回（予定）のフリーマーケットを開催すると共に、緑地等における各種催事の企画やイベント誘致で利用促進を図っていきます。

2 研修施設（訓練センター）の管理運営

当財団の研修施設は、駅からのアクセスも良く、利用者から好評をいただいております。今後とも海と港と船に関連する団体・法人等に幅広くご利用をいただけるよう、WEB上での施設申し込み、予約状況の確認等、ホームページの見直しにより、利用者の利便性向上に努めてまいります。また一度利用して頂いたお客様の“リピーター化”にも努めて参ります。

3 シーカヤック体験教室等

みなとみらい21地区の水際線に位置し港湾緑地である日本丸メモリアルパークの内水域及び自動車道側静水域において、NPO横浜シーフレンズと連携しシーカヤック体験教室を開催します。このシーカヤック教室は22年度の試行的な実施を経て23年度から本格的実施となり、約600名の参加がありました。24年度につきましても約1,300名の参加が見込める状況です。25年度は更にこども教室などの実施回数を増やすと共に定期的な平日の体験試乗会なども開催し、内容を拡大・充実し、2,500名以上の参加者を目指します。

又、水域の有意義な活用として、10月下旬には『カヌーポロ』大会

を実施する等、様々なマリンスポーツを体験出来る場所、そして情報発信基地として、インナーハーバーの賑わいを創出していきます。

4 水質改善調査

今年度は、横浜港を美しく生命豊かな海へと再生するため、横浜市や関係諸団体の協力を得て、日本丸メモリアルパークのシーカヤックパーク内水域において、海洋環境の改善に取り組む団体等との協働による水質保全活動を展開します。

IV 賑わい創出に向けた集客・プロモーション事業

平成25年度の来館者数目標である18万人達成をめざし、学校やその他団体への営業活動を強化いたします。お子様からお年寄りまで幅広いお客様にご参加、ご観覧いただけるよう、多彩なイベントを企画・実施いたします。これまで培ってきた自治体や地域の組織・施設・団体・学校・企業などとの連携をより強固にして、施設の応援団、ファンづくりに取り組み集客を進めていきます。地域のマスコミ、市民利用施設、組織団体などを通じてより効果的な広報活動を展開いたします。

1 団体への取り組み

- (1) 神奈川県内の小学校（横浜市内小学校344校、その他の小学校514校）の遠足などの学校行事を誘致するために、定期的な情報発信と訪問営業を実施いたします。横浜市小学校の『ふれあいコンサート』の際の見学、昼食場所としてご利用いただけるよう営業をいたします。また、首都圏の小・中・高等学校の遠足の誘致や北関東、東北および中部などからの修学旅行誘致のための情報発信も実施いたします。加えて、横浜観光コンベンションビューローの教育旅行誘致事業とも連携し活動いたします。
- (2) 地域の幼稚園や保育園には参加型イベントの共同開催などを継続して行きます。
- (3) 旅行会社向け施策を実施し全国の学校を始めとする団体の誘致をいたします。

2 広報・宣伝への取り組み

(1) マスコミへの取り組み

新聞社、TV（ケーブル含む）局やラジオ局へ、前広に情報発信を行うとともに、掲載率を高めるための営業活動の実施し、より多くのお客様に施設やイベント情報を発信いたします。

(2) 市民利用施設への取り組み

図書館、地区センター、ホテル、観光案内所、市民活動支援センターなどの利用者へは、ポスター掲示やチラシの配布などで情報提供をいたします。

(3) ホームページへの取り組み

ホームページを通じて、企画展や展覧会、募集型事業やイベントなど、お客様によりタイムリーで見やすいかたちで情報提供をいたします。また、港湾局が運営する「みなと賑わいネットワーク」のFace Bookとも連携し情報提供を行います。

(4) ガイドブック、専門誌や地域紙への取り組み

全国の一般のお客様向けとして、『るるぶ』や『まっぷる』を始めとする旅行雑誌、全国の学校向けには月間「教育旅行」への年間を通じた情報提供をいたします。

「ミレア」を始めとする地域誌、「ENJOYみなとみらいBOOK」を始めとする私鉄沿線広報誌を通じた情報提供をいたします。

(5) 旅行会社への取り組み

JTBグループを始めとする旅行会社やJR東日本を始めとする鉄道各社旅行部門へ定期的な情報発信を行い、個人観光客や団体観光客への情報提供や集客チャネルとして連携を強化してまいります。

(6) 訪日観光客への取り組み

横浜観光コンベンションビューローと連携し海外メディアへの情報提供や海外で開催される観光展での情報提供をいたします。

3 各種イベントの展開

地域の幼稚園・保育園、キッズダンスチームの皆さんに、継続して参加いただけるように、参加型イベントや子ども達の発表の場としてのイベントへとより重点をおいて展開してまいります。

(1) 定期的なイベント

①吹奏楽コンサート

横浜吹奏楽連盟および神奈川県職場・一般吹奏楽連盟の主催、後援で吹奏楽コンサートを年間14回（予定）開催します。

②ロックヤード ライブ at 日本丸

ロックミュージックを中心としたライブステージを定期的で開催します。

(2) スポット型のイベント

①ゴールデンウィークイベント（ファミリー向け）

・音楽 ・参加、体験型事業・工作教室

②ハロウィンイベント（ファミリー向け）

・参加型 ・地域連携型

③クリスマスイベント（ご夫婦・カップル向け）

・日本丸営業時間延長 ・船上音楽ライブ ・イルミネーション

④帆船日本丸進水記念祭（全てのお客様向け）

・音楽 ・地域連携型・工作教室

4 横浜市・近隣施設との連携

(1) 西区をはじめとして地域の市民活動支援センター利用団体等や子育て

支援拠点、老人クラブなどへの施設情報やイベント情報の提供PRを行い、施設の認知度向上および来館を促進します。

- (2) 閑散期に西区はじめとして近隣各区の区民デーを設定し、在住者、在勤者、在学者向けの割引やガイドツアー等を行い、来館を促進します。
- (3) 近隣の幼稚園、保育園に進水記念祭やその他のイベントへの継続的な参画がいただけるよう働きかけます。
- (4) 近隣ホテルへ、企画展やイベント情報をタイムリーに発信し、宿泊客の来館を促進します。
- (5) 近隣のみなとみらい技術館や日本郵船歴史博物館、横浜開港資料館、野毛山動物園、京浜フェリーボートなどと連携し、相互に来館を促進します。
- (6) 横浜市のプロモーションと連携したイベント誘致
横浜市が推進するイベントに協力、誘致しパークの賑わいづくりと入館者増をはかります。

5 「海と山と丘の公園交流事業」

日本丸メモリアルパーク（横浜市）、神奈川県立相模原公園（相模原市）、国営アルプスあづみの公園（長野県安曇野市・長野県大町市）の3公園において、それぞれの特色を生かして、「地域を越えた自然交流や子どもたちの体験交流」を柱とする「海と山と丘の公園交流事業」を行っていきます。

平成25年度の交流事業

- (1) 日本丸募集写真展 at あづみの公園（5月）
- (2) 日本丸募集写真展 at 相模原公園（6月）
- (3) 相模原公園&日本丸メモリアルパーク&あづみの公園共同写真展
at 相模原公園（7月～11月）
- (4) 日本丸ペーパークラフト教室 at あづみの公園（10月）
- (5) 相模の大凧展 at 日本丸（1月）
- (6) あづみのから雪がやって来る！ at 日本丸（3月）

6 各種団体・企業との連携プロモーション

JTB コーポレートセールスやその他広告代理店などを通じて、アリーナの利用促進とメモリアルパークの賑わいの創出のため、自治体、自治体の関係団体、業界団体、企業等のプロモーション事業受入に当たって、日本丸メモリアルパークのプロモーションにも繋がるイベント内容を提案して行きます。

V 付帯施設の運営等

1 ミュージアムショップの運営

来館者の思い出になるような帆船日本丸や企画展等に関連する「オンラインワン」の記念グッズの数を増やし、企画展の図録や絵はがきのバックナンバーを揃え、平成24年度に制作した「日本丸ラストセーリングポスター」と「昭和の時代の日本丸絵はがき」等財団事業全般に関連する商品開発と積極的な宣伝、HP活用による通信販売にも力を入れます。

来館される多くのお客様に喜んでいただき、売上の増加及び収益確保に努めます。

2 ミュージアムカフェの運営

帆船日本丸が大海原を駆け巡っていた当時と同じように、ゆったりとした時間が流れるよう「横浜らしいひと時」をミュージアムカフェにて演出します。

3 「帆船日本丸友の会」の活動

会報『ヤード』の発行や財団主催のイベントの協力など財団事業を広く支援し、港や船、海に関して知識を深めている活動を実施しています。

VI 財団の事業計画の見直し

帆船日本丸は船齢 83 歳となり、100 歳までの具体的対応策を策定する時期となっております。

本市港湾局では、25 年度から大規模改修に関する調査を開始し、27 年度に改修工事の施工を計画しております。

当財団においても、この工程にあわせ、大規模改修の内容と共に、財団事業のあり方を含めた、事業計画全体の見直しを検討いたします。

1 帆船日本丸大規模改修への対応

横浜市関係者と財団関係者で、新たに研究会を設置して、次の事項を中心に検討します。

- (1) 大規模改修の内容
- (2) 横浜市と当財団との役割分担
- (3) 財団基本財産の取崩を含めた、必要資金の確保策
- (4) 市民等との協働体制

2 今後の財団事業のあり方

第三期指定管理(平成 28～32 年度)を控え、財団事業全体を見直し、コストパフォーマンスの高い事業を中心とした高付加価値型の事業運営を目指し、MM 地区全体の賑わい創出に結び付けます。

3 効率的組織運営の体制づくり

上記各項目実現のため、財団組織についても見直し、一層効率的な組織運営の形態を検討します。